

南の風

—第10号—

梅の花が見ごろを迎え、春の訪れが近づいてきました。この時期は、いよいよ1年間の総まとめの時期に入っていきます。この1年間で心も身体も成長した子どもたち。友達と笑い合ったこと、授業で「できた!」と感じられたこと、様々な思い出ができたことと思います。進級・卒業に向けて、子どもたちの学びがさらに深まるよう、努めてまいります。

今月は、「特別支援教育を考える」と、「授業改善プロジェクト」についてお伝えします。

特別支援教育を考える

《病弱教育の歴史》

日本の病弱教育は明治22年に始まりました。この時代は、脚気が病弱教育の対象の病気でした。現在は悪性新生物（白血病・脳腫瘍等）、筋ジストロフィーなどの神経・筋疾患、喘息などの呼吸器系疾患、ペルテス病などの骨・関節系の疾患、糖尿病などの内分泌系疾患、アレルギー疾患、腎炎などの循環器系疾患、てんかん、心身症及び精神疾患、重症心身障害…と多岐にわたっています。

横浜南養護学校のある神奈川県立こども医療センターは、昭和45年に小児病院・肢体不自由児施設・重症心身障害児のための児童福祉施設のある小児総合医療施設として開設されました。教育の場としてゆかり養護学校分校が設置され、これが横浜南養護学校の始まりでした。そして、令和5年4月1日より校名が横浜南支援学校となり、新たな歴史をきざんでゆきます。

《病弱教育について》

学習の遅れを補い学力を保障するだけでなく、次のような意義があります。

- 積極性・自主性・社会性を養い健全な成長を促すこと
- 心理的安定に寄与し健康回復への意欲を育てること
- 病気に対する自己管理能力を育てること
- 健康の回復やその後の生活に役立つこと

病気療養中に学校教育を受けている子どもたちは、治療成績や予後がよいと言われています。

《地域へつなぐ》

特別支援学校は、地域の学校への支援や、保護者・教員からの相談に応じたり他機関と連携してさまざまな支援を行ったりする役割があります。本校も、先ほどの内容を踏まえて病弱教育の特別支援学校として教育相談や復学支援を行っています。入院による教育面の心配や地元校に戻るにあたっての心配など様々な思いを受け、一人ひとりに必要な支援や配慮を子どもに関わる人みんなに知ってもらえるようにしています。そして、その積み重ねによって病気の子どもや病弱教育のことをたくさんの人に知ってもらい、子どもたちが生活しやすい社会につなげていけるのではないかと考えています。

何かあった時には、周りの教員がお力になれると思います。いつでもご相談ください。



授業改善プロジェクト

本校では教員の授業力向上に向けて、授業改善プロジェクトという活動を行ってきました。授業改善プロジェクトには、8つのグループがあり、それぞれのグループが授業改善に向けて一年間研究活動をしてきました。

今回は、「チーム国語プロジェクト」の活動についてご紹介いたします。「チーム国語プロジェクト」は、その名の通り国語科の授業実践を通して学び、授業改善につなげていくことを目標に活動してきました。

1番力を入れてきた活動は、年間4回の授業実践と協議会です。授業の様子を国立特別支援教育総合研究所研究員の先生にも見ていただきました。授業参観後に協議会の中でアドバイスをもらうことで、授業者は子どもたちへのより良い指導をするための方法や教材・教具について学ぶことができました。

活動内容
①年間の計画作成
②中学部国語科教員による模擬授業
③小学部1・2年国語科授業実践と協議会 (計4回)
④まとめ
⑤報告会にて1年間の活動について発表

現在は各グループ共に1年間で得た成果と課題をまとめる作業をしています。3月には学校全体で報告会を実施する予定ですので、報告会の中で発表したことを学校全体の学びにすることで、教員一人ひとりの授業力向上へとつなげていきたいと思えます。



3月 行事予定

1日(水)	入学説明会	8日(水)	小学部 卒業式練習
6日(月)	小中学部 短縮4校時 (～10日)	13日(月)	小学部2組 個人面談期間 (～17日)
	小学部1組 個人面談期間 (～17日)	20日(月)	午前日課(～24日)
	中学部 個人面談期間 (～10日)	22日(水)	卒業式
		24日(金)	修了式・離任任式

横浜南養護学校 ホームページ <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/y-minami-sh/>

※横浜南養護学校は、令和5年4月1日より横浜南支援学校に校名が変わります。